「雄志」74号

衆議院議員

谷田川はじめ

立憲民主党千葉県第10区総支部
谷田川はじめ後援会事務所
〒287-0001　千葉県香取市佐原ロ 2164-2
TEL 0478-54-5678　FAX 0478-52-6991
Mail:info@hajime-yatagawa.com
HP:www.hajime.yatagawa.com
国会事務所
〒100-0014　東京都千代田区永田町２-2-1
衆議院第一議員会館 1208 号室
TEL 03-3508-7292　FAX 03-3508-3502

野田元総理による安倍元総理への追悼演説を聞いて

「政治家の握るマイクには、人々の暮らしや命がかかっています。暴力に怯まず、臆さず、街頭に立つ勇気を持ち続けようではありませんか」と野田元総理が右手拳を握りながら発する言葉に大きな拍手がおこりました。

これは、10月25日、衆院本会議で行われた安倍元総理への追悼演説の最後の方の場面です。

さらに、今度は左手を握りしめ、「民主主義の基である、自由な言論を守り抜いていこうではありませんか」と語るとまた大きな拍手。

そして、右から左へと握る手を変えながら、「真摯な言葉で建設的な議論を尽くし、民主主義をより健全で強靭なものへと育て上げていこうではありませんか」と言い終えると一段と大きな拍手が沸き起こりました。

この場面は、安倍元総理への追悼というよりも、野田氏の決意が強く表れています。すなわち、社会の分断が進んでしまったと言われる今日、与野党が一致点を見出すため、徹底的に議論する意欲を欠き、与野党の足のひっぱり合いが目立つ国会の現状を何とか打開しなくてはならぬとの思いです。

野田氏は、安倍氏との生前のエピソードとして、二人きりで、陛下の生前退位に向けて、じっくり語り合い、その結果「政争の具にしてはならない、国論を二分することのないよう、立法府の総意を作るべき」という点で意見の一致をみたことを披露しました。

この部分には、先の安倍元総理の国葬を国会の関与がなく、内閣の独断で決めた岸田総理への批判が暗に込められていたと私は思います。

去る11月6日、3年ぶりに私が主催する講演会・パーティーを開きました。講師の大石久和先生には「日本病から脱却するための処方箋」と題して講演して頂きましたが、国難とも言える今日、与野党の枠を超えて、真の国益を目指すための政策は、一致協力して推し進める必要があると感じます。今後は、このことを肝に銘じ、日々活動して参る所存です。

尚、今回の講演会・パーティーは感染防止の観点から密を避けるため、収容人数がいつもより限られたため、ご案内できなかった支援者の方が多数いらしたと存じます。

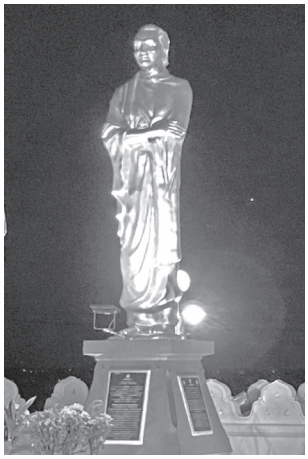
どうか、このコロナ禍に鑑み、ご海容賜りたくお願い申し上げます。

結びに、向寒の折、皆様のご健勝を祈念し、私の挨拶といたします。

令和四年十二月

谷田川はじめ

スリランカ仏教蘭華寺　アナガーリカ・ダルマパーラ像除幕式に出席


アナガーリカ・ダルマパーラ像

10月16日、地元佐原にあるスリランカ仏教蘭華寺にアナガーリカ・ダルマパーラ氏の像が建立され、その除幕式で挨拶しました。同氏は、スリランカ仏教の精神的支柱と言える人物で、像の完成を機に、蘭華寺が世界の平和と繁栄に一層貢献することを願わずにはいられません。

日本とスリランカの関係においては、1951年のサンフランシスコ講和会議におけるジャヤワルダナ蔵相（後のスリランカ第2代大統領）が「憎悪は憎悪によって止むことはなく、慈愛によって止む」とのブッダの言葉を引用し、対日戦争賠償請求を放棄する演説を行いました。

挨拶する谷田川はじめ

これが、日本の早期の国際社会復帰に寄与したことは間違いありません。ジャヤワルダナ氏は、アナガーリカ・ダルマパーラ氏ととても親しい関係にあったとのことです。

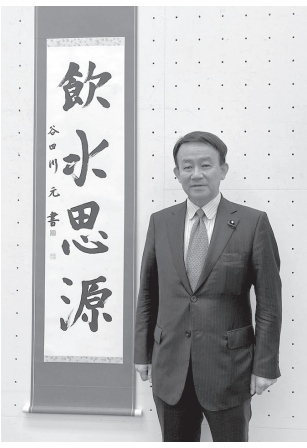
半島振興対策促進大会で挨拶

10月19日、立憲民主党を代表して半島振興対策促進大会で挨拶しました。

半島振興法が昭和60年に制定された際、和歌山県選出の玉置和郎代議士が発案者であり、それを強く支えたのが千葉県の浜田幸一代議士（浜田靖一防衛相の父）であると指摘。

先人たちの弛まぬ努力に敬意を表するとともに半島振興対策の中身が充実するよう粘り強く政府に働きかけようと呼びかけました。

日本書鏡院展に出展



毎週木曜日の早朝、衆議院赤坂議員宿舎で「書こう会」という書道教室に参加しています。講師は、日本書鏡院 三代目会長の長谷川耕史先生。

「書こう会」での作品を10月24日から30日まで上野東京都美術館で開催された日本書鏡院展に出展しました。

飲水思源は、中国の故事に由来する四字熟語で、「水を飲む人は井戸を掘った人を忘れてはならぬ」という意味で、すなわち「他人から受けた恩を忘れてはならない」との教訓です。

第２部は野田佳彦元総理も出席

第２部の懇親パーティーは、当初、会場にてお弁当を食べて頂く予定でしたが、コロナ禍に鑑み、お持ち帰りいただくことに致しました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

第２部から参加した長浜博行参院副議長、青木愛参院議員、小西洋之参院議員の順で祝辞を賜りました。また、第１部から出席している佐藤晴彦横芝光町長、平山富子多古町長も登壇し、一言ずつ挨拶。

次に、来年４月の県議選に香取市・神崎町・多古町選挙区から３選を目指す谷田川充丈県議、成田市選挙区から無所属で立候補する橋本みきひこ氏もそれぞれ登壇し、決意表明を行いました。橋本氏の擁立に関しては、立憲民主党のみならず、国民民主党も推薦するため、同党県連幹事長である天野行雄県議も挨拶し、橋本氏への支援を呼びかけました。

最後に、野田佳彦元総理が登壇。昨年の衆院選を振り返り、投票日の２日前までは、谷田川が相手候補をリードしていたにも拘らず、逆転を許してしまったことに触れ、最後まで競り勝つ力をつけねばならぬことを力説。また、10月25日の安倍元総理への追悼演説についても、「党派の対立が激しくなっていることで国民まで分断されている。フェアな論争をやって、同じ日本人としてお互い敬意を持って付き合いをする。そういうフェアな政治をもう一度、求めていきたい」との思いで演説をしたと語りました。

会場は熱気に溢れ、約450名の方にご出席いただきました。

野田佳彦
元内閣総理大臣

長浜博行参院副議長

青木愛参院議員

小西洋之参院議員

橋本みきひこ氏

天野行雄千葉県議

平山富子多古町長

佐藤晴彦横芝光町長

この講演会のダイジェストは谷田川はじめのホームページにて
動画でご覧頂けます。
QRコードはこちら→

11月2日に国土交通委員会が開かれ、港湾法の一部を改正する法律案について、谷田川はじめが質問しました。その概要を報告します。

日本の港湾の競争力が低下 選ばれる港湾になるためには

今、日本の港湾の国際競争力の低下が問題になっています。船舶の大型化が進む国際基幹航路で「日本離れ」が進んでいます。その結果、日本の荷主は他国でのトランシップ（積み替え）を余儀なくされていて、リードタイムが長期化し、製造業の競争力低下のリスクが懸念されています。

戦後の港湾政策は、GHQの施政下、昭和25年に港湾法が成立。当時、日本の非軍事化、民主化を目指したGHQは、日本から海洋戦略を奪うため、港湾管理権を国に与えず、地方公共団体に付与しました。国は管理権がないため、政策と予算を集中化できず、地方は管理権はあれども財政難で港湾整備が進められないという問題に直面しているのではと大臣の見解を問いました。それに対して斉藤大臣は、港湾法をめぐる歴史はあるものの、戦略港湾を国主導で進めていくと明言しました。

答弁する斉藤鉄夫国土交通大臣

民主党政権　前原大臣の「選択と集中」政策の是非

民主党政権下、当時の前原大臣は、港湾の競争力を高めるため、選択と集中という強いメッセージを発し、126から66にまで重要港湾を集中させ、京浜と阪神を国際コンテナ戦略港湾として位置づけました。その戦略について、どう評価するか尋ねたところ、斉藤大臣は、前原大臣に対する直接的な評価を避け「国土交通省は一貫して選択と集中という考え方で施策を進めております。」と答弁しました。

質問する谷田川はじめ

11月10日に谷田川はじめが衆議院憲法審査会で、国葬の儀、旧統一教会問題について発言しました。その概要を報告します。

国葬の儀は「天皇の地位にあられた方」のみにすべき

発言する谷田川はじめ

国葬は、「天皇の地位にあった方のみ」を対象とすべきです。憲法第１条に「天皇は日本国民統合の象徴」との規定があるからです。天皇の地位にあられた方であれば、国葬が国民統合を再確認する機会となるのではないかと主張しました。

また、安倍元総理以前の総理大臣経験者は内閣と政党の合同葬が慣例として続いています。それをさらに格上げするとしたら、「国民葬」とすべきではないか。佐藤元総理が逝去された時、内閣・自民党・国民有志による葬儀、すなわち「国民葬」を提案したのは、当時の中曽根康弘自民党幹事長でした。

「国民葬」を設けた場合、その対象は、総理大臣就任時から、２度以上の衆院選挙を経て、３度以上総理に就任した人とするのは、如何かと、問題提起しました。

大相撲では、大関が２場所連続優勝すると横綱になります。我が国の憲政史上における番付を考えた場合、総理大臣になれば大関とみなし、２度続けて総選挙で勝利すれば、まさに横綱です。いわば、横綱級の総理大臣経験者を「国民葬」の対象とすることを提案しました。

信教の自由はあれど人を不幸にする自由はない

旧統一教会の問題については、オウム真理教に殺害された坂本弁護士が残したとても印象的な言葉があります。

「信教の自由はあっても、人を不幸にする自由は許されない。」

信教の自由と宗教法人としての特権が失われることは、切り分けて議論し、霊感商法などの違法行為が反復継続して行われてきたことは明らかなのですから、旧統一教会への解散請求を政府として速やかに行うべきだと主張しました。

谷田川はじめの質問の模様を動画にて、こちらのＱＲコードからご覧いただけます。

「出前立憲民主党」を実施！ ５市３町を訪問

8月16日、出前立憲民主党の活動を行ないました。千葉10区内の各市町役場に足を運び、国政や県政に関する要望を谷田川はじめが直接聴取しました。

各自治体の要望実現に向け、粘り強く関係省庁に働きかけて参ります。

香取市：米の需給改善及び転換作物への支援継続など

銚子市：学校給食の保護者負担軽減など

多古町：盛土緊急対策事業の更なる支援など

成田市：公設卸売市場への財政支援等

東庄町：介護医療院転換に対する財政支援等

旭市：老朽化した上下水道への生活インフラ整備支援など

横芝光町：成田空港への直結道路について

匝瑳市：コロナに係る医療機関に対する財政支援など

9月13日　自治体の要望をふまえ、小西参院議員と谷田川が関係省庁と協議

大石久和先生（元国交省技監）を迎えての講演

講演に聞き入る参加者

「日本病」からの脱却と題して講演した大石久和先生

11月6日午後4時よりアートホテル成田（旧 成田ビューホテル）にて、谷田川はじめが主催の講演会が開かれ、司会は谷田川充丈千葉県議が務めました。

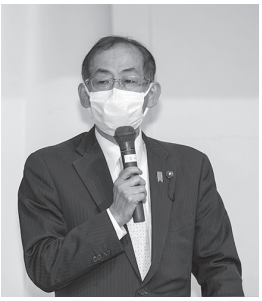
谷田川はじめが冒頭の挨拶で、昨年の衆院選での支援に感謝の意を表するとともに、次回こそは小選挙区で当選するという明確な目標を持って活動するとの誓いの言葉を述べました。

次に立憲民主党千葉県連代表 奥野総一郎衆院議員、連合千葉 永富博之会長が順に挨拶。そして、千葉10区内の首長を代表して小泉一成 成田市長が登壇。12月25日実施の成田市長選で5選を目指す決意表明がありました。熊谷俊人千葉県知事は、アクアラインマラソンに参加のため欠席。それに代わる形で約1分間のビデオメッセージが流されました。

そして、国土学総合研究所長である大石久和先生より「日本病から脱却するための処方箋」と題して50分間講演頂きました。

パワーポイントを駆使し、客観的データに基づいた大変分かり易い説得力のある話でした。

特に講演の最後の方で「皆さん、我々は主権者です。主権者は、政府の動きをしっかり監視しなくてはなりません。それは、主権者の責務です。」と述べられたことに多くの方が共感されたのではないでしょうか。



谷田川充丈千葉県議

連合千葉
永富博之会長

立憲民主党千葉県連代表
奥野総一郎衆院議員

小泉一成 成田市長

谷田川はじめ

ポスター掲示等　ご協力のお願い

橋本みきひこ　プロフィール

平成7年生まれ、今年で27歳
千葉県立千葉高校卒・防衛大学校卒
1年半の航空自衛官を経て、経営コンサルとして活動中。

来年4月の千葉県議選の候補予定の2人を紹介します。

右は、香取市・多古町・神崎町地域の谷田川みつたけ千葉県議です。精力的に活動中です。ご協力よろしくお願いします。

左は、成田市選挙区から無所属にて挑戦する橋本みきひこです。知名度アップにつなげるため私との2連ポスターを作成しました。是非とも、ご自宅の壁や塀に張らせていただきたくお願い申し上げます。

なお、ご協力いただける方は谷田川はじめ事務所までご連絡ください。☎０４７８－５４－５６７８

谷田川みつたけ　プロフィール

昭和42年　香取市生まれ　55歳
千葉県立佐原高校卒
駒沢大学経営学部卒
㈱地産を経て、兄の谷田川元秘書
香取市議会議員を経て、
平成27年　千葉県議会議員初当選
現在2期目

谷田川はじめプロフィール

1963年1月17日香取市佐原生まれ
千葉県立佐原高校、早稲田大学政治経済学部卒業
松下政経塾出身（在塾中、米国連邦下院議員政策スタッフを経験）
千葉県議会議員4期
衆議院議員3期
現在　国土交通委員会、決算行政監視委員会、憲法審査会に所属
　　立憲民主党千葉県連副代表　千葉県ハンドボール協会会長

皆さんの声を届けたい

谷田川はじめは、皆さんとひざをまじえて、意見交換することを活動の原点としています。

少人数でも構いません。
皆さんのお茶会・女子会等、集まりがあったら是非お声掛けください。

●後援会ニュース「雄志」定期購読会員募集

谷田川はじめと支援者を結ぶ機関紙「雄志」を
年4回発行しています。　あなたのご意見を反映します。

年会費一口2,000円（何口でも可）

購読料のお振込先
郵便振替口座　00110-9-390288「谷田川元後援会」

冠婚葬祭等の情報がありましたら、
谷田川事務所までご連絡下さい。

メッセージの手配をさせて頂くとともに、日程調整がつけば、谷田川はじめが伺います。

千葉県第10区在住のお知り合いの方をご紹介ください。

ご連絡お待ちしています

TEL　0478−54−5678
FAX　0478−52−6991